

平成5年度

郷土資料の作成と活用に関する研究

—副読本「かわさき」学習指導資料の編集を通して—

川崎市総合教育センター 郷土資料研究会議

郷土資料の作成と活用に関する研究

— 副読本「かわさき」学習指導資料の編集を通して —

郷土資料研究会議

石川 健次¹ 桑野 ヨシ江² 芹澤 伸司³ 本告 一生⁴

要 約

新しい教育観、学力観に基づく授業改善が叫ばれる中で、1・2年次の研究により副読本「かわさき」が改訂、発行された。難しいといわれる地域学習において、市民読本としての性格もあわせ持つ副読本「かわさき」の扱い方を示唆する教師用手引書を作成する必要がある。そこで、3年次目の本研究では、副読本「かわさき」の学習指導資料の編集を通して、中学年の地域学習を新しい学力観に基づいて進めるにあたっての郷土資料の活用に重点をおいて以下のような構想の下に研究を進めた。

- ・「県外出身の中学年担当の新任教師」も活用できる学習指導資料を編集する。
- ・「かわさき」を使い地域素材を教材化する方法をつかみ、「子どもと共に学び」、地域に対する見方・考え方を深め、市民意識を育てる弾力的な指導や支援ができるようにする。

「かわさき」学習指導資料は、“指導資料編”で副読本「かわさき」の扱い方を、“学習資料編”で子ども用の資料を、“郷土かわさきミニ事典編”で幅広い教材研究のできる内容構成にして、地域学習で副読本を多面的に活用できることをねらった。

- ・副読本「かわさき」や学習指導資料をはじめ当センターの資料を生かした地域学習の実践事例づくりを通して、子どもの川崎に対するイメージや見方をとらえ、その変容を検証する。
- ・小・中学校で同じ素材を使い、どんな社会認識が育つか、多摩川などの教材開発をする。

以上のような課題が残された。この学習指導資料を使い、具体的な観察、調査活動や体験を重視する地域学習で、副読本が学習材づくりの手がかりとして活用されることを期待したい。

キーワード：郷土資料，副読本「かわさき」，社会科，地域学習，市民読本，教材研究

目 次

はじめに		3. 個に応じ、社会的な見方・考え方を育てる学習指導資料	41
I 主題設定の理由	34	4. 副読本「かわさき」の部分改訂	44
II 研究のねらい	35	5. 郷土資料の作成、活用と市民的資質の育成	46
III 研究の方法	35	V まとめと今後の課題	49
IV 研究の内容および考察	36	おわりに	
1. 副読本と学習指導資料について		・参考文献・指導助言者等	
どのように考えたか	36		
2. 地域学習と副読本の活用について	39		

¹ 川崎市立百合丘小学校教諭（主任研修員）

² 川崎市立新城小学校教諭（研修員）

³ 川崎市立西野川小学校教諭（研修員）

⁴ 川崎市総合教育センター研修指導主事

はじめに

平成3年度、4年度の郷土資料研究会議によって、地域社会の変貌と学習指導要領の改訂に対応した平成5年版の副読本「かわさき」が、横書きの体裁となって全面改訂された。

小学校中学年の地域学習に欠くことのできない副読本「かわさき」であるが、「教科書を教える」という姿勢で副読本があるから指導しやすいと安易に考えるならば、「見て、調べ、考える」社会科の本質は失われる。また、中学年の教師から、「中学年の社会科はむずかしい。」という声もよく聞かれることである。それは、地域学習において「何を」、「どのように」学習したらよいのかが明確でないという点もその一因であると思われる。したがって、市民読本としての性格も併せもつ副読本「かわさき」の地域学習の中での扱い方を明らかにすることが必要である。

具体的な資料をそろえ、学習の示唆を与える副読本をもとに、子どもたち一人一人の立場に立った問題解決の学習にするために、これをさらに精選・補完し、各学校の地域や子どもの実態に即して柔軟に活用できるようにする教師用の指導資料を作成することが求められている。

また、生涯にわたって学び続ける意欲・態度・能力を育成する生涯学習がいわれる今、変化の激しい社会に生きる子どもたちの市民意識の向上を図る市民読本としての副読本「かわさき」の活用のありかたを検討することは意義があると考えられる。

そこで、3年次目の本研究では、副読本「かわさき」の学習指導資料の編集を行った。そして、副読本「かわさき」の活用を通して、子どもたちが、「地域を学び」、「地域で学ぶ」ことにより、「地域に生きる力」や「地域から出る力」を主体的に育成できる地域学習の進め方を検討するとともに、郷土資料の活用方法について研究を進めた。

I 主題設定の理由

副読本「かわさき」は、昭和30年の発刊以来、地域社会の変貌や社会情勢の変化に対応して改訂を重ね、平成5年度の大改訂で6回目となる。また、副読本「かわさき」を効果的に活用してもらうために、指導資料も以下のように改訂を重ねてきている。

指導資料改訂の経過

<副読本の改訂>	<指導資料改訂>	<指導要領>
S30 「かわさき1・2」発刊		S33 告示
S36 「かわさき1」大改訂		
S37 「かわさき2」大改訂		
S41 「かわさき」大改訂		S43 告示
	S47 指導手引(前身)	
S52 中間改訂(1/3程度)	S52 指導手引(3年用・4年用)	S52 告示
S55 大改訂	S55 指導手引(3・4年共用)	

S59 大改訂（総カラー化）

S60 指導資料発行

S63 中間改訂（1／3程度）

S60 指導資料補充版発行

H元 告示

H5 大改訂（横書き）

（H6 学習指導資料発行）

そして、川崎市は今、「2001かわさきプラン」をもとに「川崎新時代2010プラン」も策定され、21世紀に向けた新しい都市づくりの中で、子ども達の生活の場である地域も、日々、大きく変わりつつある。また、平成元年度の学習指導要領では、新しい学力観が掲げられるとともに、生活科が新設され、教科としての社会科の学習は3年生から行われることになった。こうしたなかで、副読本を活用するにあたって考えなければならない点を以下にあげる。

1. 副読本「かわさき」は、中学年の社会科副読本と市民意識の高揚を図る市民読本としての性格も考慮して編集されている。しかし、社会科学学習の基礎・基本といわれる地域学習において、「副読本で学習」することはあっても、「副読本を学習する」ということにならないように、社会科学学習のねらいや副読本の性格をゆがめないような利用の仕方を明らかにする必要がある。
2. 新しい学力観に基づいて、子どもの関心・意欲を生かし、地域に対する見方や考え方を育てるために、教師自身が地域社会の地理的・歴史的事象などについて、調査・研究し認識を深めておく必要がある。

以上のことをふまえて、変貌著しい川崎の様子を多面的にとらえ、学習指導要領の内容に即して、地域学習における副読本「かわさき」の活用をはかるための教材研究に資する教師用指導資料の作成と、統計数値の更新を中心とした部分改訂を意図して、研究主題を設定した。

Ⅱ 研究のねらい

1. 改訂された副読本「かわさき」の活用の手引書となる学習指導資料のありかたを検討することにより、小学校中学年を中心とした地域学習の教材研究の基礎資料及び、学習展開の中での補助資料として活用できるようにする。
2. 市域の素材を教材化した副読本の編集方法をもとに、中学年担当の教師が地域素材の教材化など地域学習を進める手順をつかめるようにする。
3. 副読本「かわさき」の内容を見直すことにより、統計数値の更新や、写真資料の一部さしかえを行い、より新しく、わかりやすい副読本を提供する。

Ⅲ 研究の方法

学習指導資料の作成にあたっては、郷土資料の活用に関する研究の内容を編集方針やその構成に盛り込む。また、副読本の部分改訂は、学習指導資料の編集方針確立後、取り組むことにした。

<郷土資料活用の研究>

<学習指導資料の編集>

1. 副読本と学習指導資料の基本的な考え方について	1次……構想, 方針 4月	・編集方針, 構成, 形式の検討 ・方針, 構成, 形式など基本案の確立
2. 地域学習と副読本について	2次……企画, 構成 5月	・プロットと紙面構成の検討, 確立 ・編集組織と執筆分担
(1) 地域学習と地域教材		
(2) 地域でとらえること		
(3) 素材と資料入手先・取材先	3次……執筆, 検討 6月	・粗原稿の執筆, 検討 ・執筆の共通理解と留意点確認
(4) 指導計画への位置づけ		・取材と資料収集, 整理 ・第1次原稿執筆と資料作成
3. 社会的な見方・考え方を育てる学習指導資料について		
(1) 多面的に活用できる学習指導資料	7月	・ ”
(2) 子どもに問題意識を持たせる資料	8月	・第1次原稿と資料の集約・検討
(3) 子どもの意欲を喚起する学習資料	9月	・最終原稿執筆, 資料確立
(4) 郷土川崎ミニ事典	10月	・最終原稿と資料の集約・検討, 確定
4. 「かわさき」の部分改訂	4次……校正 11月	・確定原稿の内部校正 ・原稿渡し
(1) 部分改訂の方針と改訂箇所	12月	・資料整理
(2) 改訂箇所の優先度	1月	・校正
	2月	・最終校正
	(3月	学習指導資料発行)

そして、次のような研究仮説を設定した。

- ・「県外出身の中学年担当の新任教師」も活用できる学習指導資料を編集すれば、
- ・「かわさき」を使用する中学年の地域学習において、
- ・「かわさき」を使いながら、地域素材を教材化する方法をつかみ、「子どもと共に学び」、地域に対する見方・考え方を深める支援ができるようになるであろう。

IV 研究の内容および考察

社会科副読本は、教科書の持つ一般性に対して、地域の特殊性に重点をおいて、地域で生活する子どもの実態に応じた学習指導を行うための補助教材として用いられている。

副読本「かわさき」の学習指導資料の編集にあたり、副読本の活用の仕方と、副読本の教師用手引書の基本的な考え方を検討した。

1. 副読本と学習指導資料についてどのように考えたか

(1) 副読本の活用

副読本は、学習目標に迫るための教材であって、手段に属するものである。その副読本の性格や学習目標、内容、地域や子どもの実態などに応じて、適宜、その扱い方を変える必要がある。そこで、活用の際の留意点については、次のように考えた。

- ①副読本の性格や内容を理解し、地域の事象や特性を理解する。
- ②子どもの見方を予想し、考えの拠り所となる副読本の資料が、どこで、どのように使えるか、学習指導計画の中に位置づける。
- ③教科書や他の副読本との関連を図る。
 - ・教科書では、一般性（学習目標、内容、その順序性、学習方法）や、他地域の教材について把握する。
 - ・学習目標に適した各種の副読本を選択し、問題解決に役立つ資料を把握する。
- ④自らが地域を観察したことや、収集した資料と結びつけて使う。

(2) 学習指導資料の基本的な考え方

- ①「かわさき」の活用の仕方をもとに、中学年担当の教師が地域学習の方法を理解し、日々の社会科の学習指導に生かせるようにする。
- ②手に入りにくい様々な資料の情報を掲載して、「見られない、行けない、作れない」という声に応え、子どもの学習への関心・意欲に応じることができるようにする。
- ③写真やグラフなどの資料の見方や扱い方がわかるようにする。
- ④学習目標や各学校の実態に応じて、どこを、どのようにピックアップすればよいか教材研究ができるようにする。
- ⑤教科書やその他の関連資料も生かして、子どもにも問題意識を持たせ、問題解決的な学習ができるようにする。
- ⑥学習意欲を喚起し、授業にすぐ使える学習資料を例示して、資料作りの参考となるようにする。

今回、「かわさき」の学習指導資料の前身である「指導の手引き」や「指導資料」という名称でなく、「学習指導資料」としたのは、新しい学力観に立ち、個性を生かす社会科学習にするための多様な教材研究ができるように、教師自身が川崎についてより深くより幅広く知ることができるようにすること、幅のある弾力性をもった学習展開を可能にする情報や資料づくりの参考を示すことに重点をおいたからである。

(3) 学習指導資料の構成をどのように考えたか

前述の研究の方法で示した構想と、学習指導資料の基本的な考え方をふまえ、旧版の「指導資

I. 学習指導資料を使用するにあたって

< 作成の趣旨 >

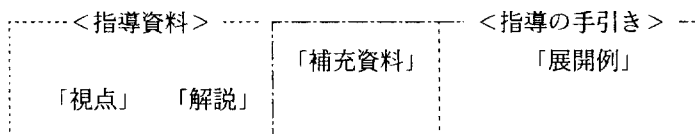
副読本「かわさき」は、3、4年生の地域学習を進める際に利用できるように、子どもたちにとって「見て楽しく学べる副読本」として発行された。この「学習指導資料」は、「地域で学び」「地域を学ぶ」3・4年生の社会科学習において、「かわさき」を効果的に活用するための教材研究ができるように副読本「かわさき」の活用の手引書として作成されたものである。

中学年では、社会生活の成り立っている地域を学ぶと同時に、地域の事象を通して社会事象の意味を考えたり、社会の原則を生活の場を通して学んだりすることに社会の成員としての自覚や、地域社会の発展を願う態度を育てることが大切な目標になっている。これは、中学年の子もだけでなく市民の方々にもいえることであり、この意味において「かわさき」は、「市の概観がわかりやすくつかめる市民読本」としての性格も考慮して編集されている。このように副読本「かわさき」は3・4年生の社会科副読本と市民意識の高揚を図る郷土読本という二つの性格を併せもっているため、その内容のすべてを扱わなければいけないということではない。

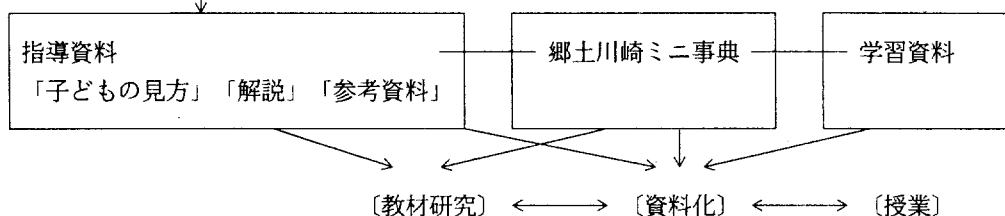
そこで、この「学習指導資料」は、

- ①副読本の内容を精選、補完し、「何を」「どのように」扱ったらよいか、各学校の地域や子どもの実態に応じて活用できるように
- ②川崎という地域の事実を的確に把握し、幅広い教材研究ができるように
- ③地域資料や情報によって、子ども自らが学ぶ意欲をもって、主体的に「見て、調べ、考える」問題解決的な生きた学習を支援できるように副読本とセットで活用していただきたい。

料」や「指導の手引き」の構成を生かして、学習指導資料の構成を次のように考えた。



「県外出身の、中学年担当の新任教師も、教材研究で多面的に活用できる学習指導資料」を作成し
 <学習指導資料>



地域学習に「かわさき」を活用し、一人一人の興味や関心を生かして社会的な見方・考え方を深める弾力的な授業ができるようにする。

以下に示したものは、学習指導資料の目次と構成および項目の実際である。

も く じ

まえがき

I 学習指導資料（本書）の使い方

II 副読本「かわさき」について

1. 改訂について
2. 地域学習と地域教材について
3. 地域でとらえること
4. 川崎市域の素材（構成要素）
5. 資料入手先・取材先・出典等
6. 地域素材の教材化
7. 社会科学学習指導計画（市小社研編平成4年版）と副読本
8. 社会科学学習指導計画との関連

III 指導資料

* 表紙について

1. 百万都市・川崎市
2. 海に近い平地をたずねて
3. 多摩川ぞいの平地をたずねて
4. 多摩丘陵をたずねて
5. 川崎市の人々の仕事
6. 川崎市のうつりかわり
7. 川崎の開発
8. ふるさと川崎

* 市章・市歌について

IV 学習資料

V 郷土川崎ミニ事典

あとがき

<学習指導資料の構成>

①「指導資料」は、「かわさき」見開き2ページ分を縮小したものを上段におき、下段には、小項目ごとの<子どもの見方>と<解説>、<参考資料>を設けた。なお、<子どもの見方>と<解説>、<参考資料>は、それぞれ次のような意図をもって記述している。

- ・<子どもの見方>子ども一人一人が社会事象に関心を持って意欲的に調べていく方向づけをするために、何を見させ、何を読み取らせたいのか学習で扱う際の視点として、執筆意図を明示したものである。
- ・<解説><子どもの見方>を解決するために写真、図版、本文の内容解説をしたり、補足説明したりしたものである。したがって、子どもの見方や考え方を深める指導や支援にあたって、ここを読めば最低限の教材研究ができることをねらって記述されている。
- ・<参考資料>「かわさき」の各内容の裏付けや学習の発展のための素材提供になるような資料情報を掲載したものである。

D・B ……総合教育センターのパソコン版子どもデータベースの資料

VTR ……総合教育センターの視聴覚教育資料

②「学習資料」のページは、子どもが教材に関心を持ち思考を深めていけるような資料の例として、授業にすぐ活用できるようにワーク・シートやTP化できる子ども向けの資料を掲載してある。

③「郷土川崎ミニ事典」のページは、教材研究に深みをもたせたり、「指導資料」を補う項目や用語、資料をまとめたものである。川崎市を深く広くとらえるために、知っているといふ情報の概要が記述してある。

2. 地域学習と副読本の活用について

(1) 地域学習と地域教材についてどのように考えたか

地域学習は、子どもの問題意識にもとづいて教科書の示す学習方法などを参考にしたり、地域の素材を集め、表現したり、解釈したりなどして、社会事象の認識を深め、人間の生き方を学び、市民的資質を育てることをねらいとしている。しかし、地域資料を豊富に掲載した副読本の扱い方によっては、「副読本を学ぶ」ことになったり、子どもの関心や意欲をそいでしまったりすることにもなる。そこで、地域学習と地域教材の意義について検討したことをまとめ、学習指導資料の前段に掲載することにした。

<p>2. 地域学習と地域教材について</p> <p>地域で学び、地域を学ぶ</p> <p>小学校3・4年生の社会科学習は、地域学習が中心となる。子どもたちが毎日、生活する地域は、子どもの経験の場であり、さまざまな事象を観察する場でもある。</p> <p>また、平成元年度の学習指導要領の改訂によって、1・2年生の社会科が廃止され、生活科が新設されたために、教科としての社会科の学習は、3年生から行われることになった。</p> <p>その意味においても、社会科学習の基礎・基本といわれる地域学習は、中学年以後の社会科学習の出発点となるものである。</p> <p>地域学習において、教科書や「かわさき」をはじめとする各種の副読本や、自校の副読本などを参考にしながら、様々な活動によって、教師と子どもが共に地域の具体的な素材を集め、地域社会の様子をとらえ、考えていくことが必要になってくる。</p> <p>また、地域学習を進める際には、地域の普遍性を学ぶことに重点を置いた「地域で学ぶ」ことと、地域の特殊性を学ぶことに重点を置いた「地域を学ぶ」ことは、表裏の関係としてとらえていきたい。それは、地域の事象それ自体は、特殊性を含むこともあるが、地域社会のなかに位置づけてその意味を追求することによって、一般化への手掛かりをつかめるからである。</p> <p>したがって、地域学習を進めることにより、地域の事象を通して社会事象の意味を考えたり、地域社会の場を通して社会の原則を考えたりするとともに、社会の発展を願う心情を育てるようにしたいものである。また、地域学習によって、子どもたちが学習の仕方を学び、見て、聞いて、考え、体験する等の多様な活動によって、主体的な学習ができるようにしたいものである。</p>	<p>地域教材のよさ</p> <p>副読本「かわさき」は、地域学習の教材として利用できるように編集されている。</p> <p>しかし、一般的には、地域教材は扱いにくい教材としてとらえられている感もある。それは、地域の素材となる事実や事象に以下のような要素があるからである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の事実・事象には、他の地域の事実・事象と密接に結びついている側面がある。 ・地域の事実・事象には、様々な共通性がある。 ・地域の事実・事象には、その地域だけに見られる特殊性がある。 ・地域の事実・事象には、矛盾があり、変化や発展が見られる。 <p>このような複雑な要素を内包していることが、教師が地域を的確に把握しにくくしている要因となり、教材化へのためらいになっているようである。</p> <p>しかし、各種の副読本を地域学習に利用することにより地域の特殊性や問題をとらえ、教科書では共通性の把握をするとともに、副読本の地域資料を活用することにより目標への到達が容易になるようにしたい。</p> <p>そして、地域教材は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって身近な事象であり、興味・関心を呼び起こしやすいこと ・観察や見学が可能であり、事実を実感をもって受け止めることができること ・子どもの多様な学習活動の展開が期待できること ・子どもの生活経験を生かして、具体的思考に基づく多様な見方、考え方ができること ・地域を知ることによって、地域に対する愛情や地域社会の一員としての自覚が育つことなどの特質やよさがある。 <p>副読本をはじめ、地域教材を生かし、子どもたちが楽しく社会科学習に取り組めるように地域学習の内容を充実したいものである。</p>
--	--

(2) 地域でとらえること

教材化の際の参考となるように、「地域学習での地域のとらえかた」の項目で、以下のような副読本「かわさき」作成の時の地域のとらえ方について解説を入れた。

- ①地理学的に地域をとらえる（形式地域、等資地域、結節地域）
- ②地域の事象をとらえる（初象、顕象、残象）
- ③「2001かわさきプラン」による地域特性（臨海部、内陸部、丘陵部）
- ④市民意識育成の面から

(3) 川崎市域の素材と資料入手先・取材先

自己教育力育成の面から、学習目標や各学校の地域の実態に応じて、川崎市域の素材を教材化することは、子どもの関心や意欲を生かして主体的な学習にするために重要なことである。そこで、素材の教材化が図れるように、「かわさき」の項目と構成要素を入れた素材マップを掲載することにした。また、教材化にあたって、教師自らが取材したり資料収集したりできるように、次のような資料入手先・取材先の一覧表を作成することにした。

表1
資料入手先
・取材先

大項目	中項目	小項目	ページ	ページ	資料名	写真・絵	図版	グラフ	本文	入手先・取材先・出典等
1. 百万都市川崎市	(3)百万人をこえる人々		14		・区ごとの人口		○			川崎市町村別世帯数・人口(平成3年)市統計課
		川崎の気候		15	・市の気温と降水量 ・夏の水泳指導			○		市公害監視センター 中原小学校
	(1)世界につながる川崎港	船の通り道・京浜運河	16	17	・川崎港 ・港湾見学	○				市港湾局 同上
		港に出入りする外国船・貨物船	18	19	・輸移出入品目(世界地図)		○			川崎港統計年報(平成3年)市港湾局発行 "PORT OF KAWASAKI"

(4) 学習指導計画への位置づけ

地域素材を教材化する手順として、取材や資料収集したものを学習目標にてらして学習資料化し、学習指導計画に位置づける。「かわさき」を学習に利用する場合は、学習指導計画が先行しなければならない。「かわさき」は、補助教材であり、学習の展開順序になっていないので、学習指導計画に基づいて効果的に利用される必要がある。そこで、市小学校社会科研究会作成の学習指導計画(平成4年版)の内容を洗い出し、どのように単元と関連するか分かるように関連表にまとめた。

表2
学習指導計画
との関連

大項目	中項目	小項目	ページ	ページ	3年					4年			
					わたしの住む町	わたしたちの町のようす	町の人たちの買い物	町の人たちのしごと	町のくらしのうりかわり	くらしの中の水とごみ	くらしと安全	くらしのひろがり	くらしを高めるねがい
1. 百万都市川崎市	(1)空から見た川崎	川崎市の中心地	4	5	◎	◎							
		海岸にそった埋立地	6	7	◎	◎							
		多摩川にそった平地	8	9	◎	◎							
		小高い丘のつらなる多摩丘陵	10	11	◎	◎							
	(2)地図を見て	細長い川崎市	12	13	◎	◎						◇	
(3)百万人をこえる人びと	区ごとの人口		14		◎	◎							
	川崎の気候			15	◎	◎							
2. 海に	(1)世界につながる川崎港	船の通り道・京浜運河	16	17	◎	◎							
		港に出入りする外国船・貨物船	18	19	◎	◎			◇				
		シーバースと原油タンク	20		◎	◎			◇				

3. 個に応じ、社会的な見方・考え方を育てる学習指導資料にするために

(1) 多面的に活用できる学習指導資料とは

社会科の目標である公民的資質の基礎を養うには、社会的事象を多面的にとらえ、公正な判断ができるようにすることが大切である。そのためには、広い視野からの一人一人の子どもの多様な見方・考え方を、様々な情報から弾力的に支援することができるような学習指導資料の構成や内容が必要であると考えた。

小学校中学年の社会科に関連する当センターの郷土資料やビデオやスライド、及び小学校社会科研究会作成の学習資料など、既存の地域資料を洗い出し、学習指導資料に盛り込むようにした。それは、日々の授業で利用する学習指導資料で資料の情報を目にするにより、当センターのデータベース活用を促進することにもつながると考えたからである。

副読本「かわさき」学習指導資料 執筆要項

1. 「指導資料」の執筆

①「子どもの見方」

- ・研究会議作成の一覧表を参考に、学習したくなるような子どもにとっての問題となるように加除修正して小項目で一つ記述する。
- ・見開きページの小項目で、子ども一人一人が社会事象に関心を持って意欲的に調べていく方向づけをするために、何を読み取らせたいのか執筆意図の裏返しを明示する。

②「解説」

- ・「子どもの見方」を明らかにし、解決していく立場で、指導や支援のために最低限の教材研究ができるように、写真、図版などの資料や本文の内容解説をしたり、補足説明をしたりする。
- ・教科書の指導書のように、資料や本文に①②…の番号をつけて解説する方法もとる。
- ・航空写真を見て、“市民プラザ”などいくつかの項目によって、見えるものから見えないものに子どもの見方・考え方を深められるように、教師が副読本を見ただけではわからないことを記述する。

③「参考資料」

- ・「かわさき」の各内容の裏付けや発展のための素材提供になるような資料情報を入れる。
 - ア. 本文関連の統計や図版を原資料を生かし、縮小して掲載。
 - イ. 本文掲載資料入手先以外の取材先。
 - ウ. 参考文献。
 - エ. センターのスライドやビデオなどのタイトル名。
など、教材研究に深みを持たせるような内容と思われるものを記述する。
- ・可能であれば、多様な学習活動ができるようなヒントを簡単に記述する。

2. 「学習資料」の執筆

- ①関心が出て、思考を深めていけるようなワークシートやTPシートを作成する。
- ②ワークシートは、知識を増やすというのではなく、作業によって考える力を育てるというねらいで作る。
- ③1ページに2枚の学習資料を掲載する。

3. 「かわさき地域学習ミニ事典」

- ①「県外出身の新卒の中学年担当の教師」が地域学習をするために必要と思われる項目や語句を15行以内で解説する。
- ②指導資料に記述できなかった項目や資料、旧版の指導資料の「補充資料」で落とせないものや参考になるものなどを記述する。
- ③図版などの資料を中心に付ける場合は、項目や語句の説明を簡単にして資料を入れる。

(20行位)

(2) 子どもに問題意識を持たせる指導資料

自己教育力が求められる今、学習への動機づけとなる問題意識を持たせることは重要である。そうした点からも、教材づくりは、子どもの側に立って、子どもと共に学ぶということが大切だと考える。地域の社会的事実や事象を示す資料を漠然と見ていた子どもが、次第に焦点を絞って見方・考え方を深めていくためには、問題意識を明確にし、ものを見たり考えたりする立場を自覚できるような発問や資料提示、助言などの指導が必要になる。また、問題解決を目指して、子どもらしい創意ある活動や個性的な見方・考え方が自由に出され、一つの事象を様々な観点から考えて、子どもなりの意味づけができるようにすることも必要である。

「かわさき」を活用して前述のような授業を展開することを期待して、教材研究のための指導資料のページの項目を検討した。資料の見方を表す子どもの見方、その解説と参考資料が、それである。他市町村の副読本の教師用の手引きなども検討し、教科書の朱書きや指導書の編集構成の手法を参考にして、「かわさき」の内容記述の不足部分を、即座に補うことができるように「かわさき」の内容と対応する形で、解説等を表す紙面構成を検討した。

次のものが、その検討の結果、執筆された指導資料のページの原稿である。

〈子どもの見方〉

- ・野菜や果物は、どこからくるのだろう。
- ・スーパーマーケットでは、売り手や買い手は、どんな工夫をしているだろう。

〈解説〉

①物を通して他地域とのつながりをとらえさせるのに、野菜や果物を取り上げたい。

青果店は子どもにとって身近であるので、調査活動も容易に行える。また、魚などと違い、箱やラベルから産地を知ることができるし、空箱は教室でも観察が可能である。子どもたちは、意欲的に産地調べやラベル集めをしてくるであろう。

産地の場所の確認については、掲示用の白地図にシールを張り付けるなど、子どもたちの関心度にあわせて工夫して扱いたい。

②スーパーマーケットの売り場を観察させるのに次の点に着目させたい。

- ア. 店内に掲示されているちらしや表示
- イ. 買い物の仕方—かご、レジ、袋づめ
- ウ. 商品の種類と価格
- エ. 商品の陳列の仕方

オ. 店内放送の内容

カ. 生鮮食品のパックについている表示

キ. 店内で働く人の様子

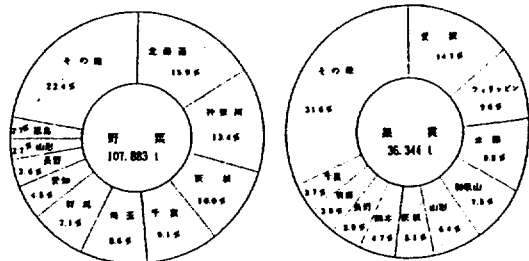
ク. 休業日前日、閉店間近の店内の様子など

以上の点に着目させると、売り手や買い手の工夫や智恵に気付くはずである。大勢で見学に行くと迷惑がかかることもあるので、個人か小グループ単位で行動させるなどの配慮も必要である。

個人経営の青果店や鮮魚店と比較しながら観察させると、より多くの点に気付きやすくなる。

〈参考資料〉

産地別取扱数量比率（平成4年度）



(川崎市中央卸売市場より)

(3) 子どもの意欲を喚起する学習資料

学習資料は、地域素材を学習目標にてらして資料化し、学習過程に応じて使用する。教師は、学習目標や子どもの発達段階や興味、関心を考えて、地域素材を教材として再構成し、学習資料に加工しなければならない。この学習資料のページは、「かわさき」に掲載されている資料と掲載されていないその他の地域資料で、資料づくりの参考となるように意図したものである。また、拡大してワークシートにしたり、TPシートにしたりして、授業にすぐ使えるようにする形式も考えた。

図1
学習資料1

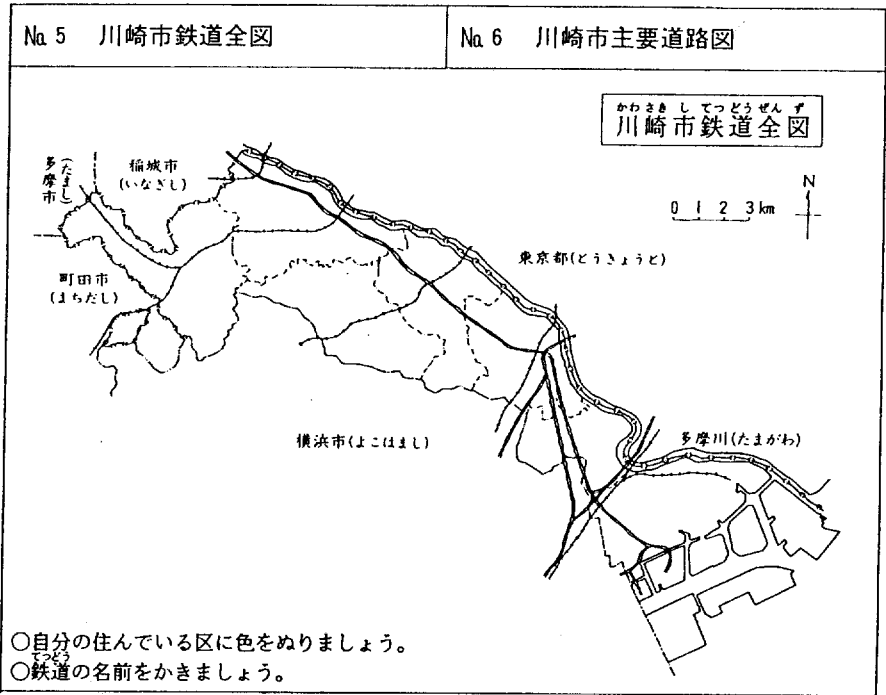


図2
学習資料2



(4) 幅広い教材研究のための「郷土川崎ミニ事典」

幅広い教材研究ができるように、指導資料の補充のために設定したページである。旧版の「かわさき」の索引、旧版の指導資料、平成5年版の「かわさき」から抽出した用語、562語の中から領域別に分類してまとめようと考えた。しかし、内容によって、また扱い方によって二つの領域に関連するものが多くあり、領域別分類は単年度の研究では難しいことがわかった。そこで、指導資料の各章で補充する必要があるものに絞らざるを得なかった。

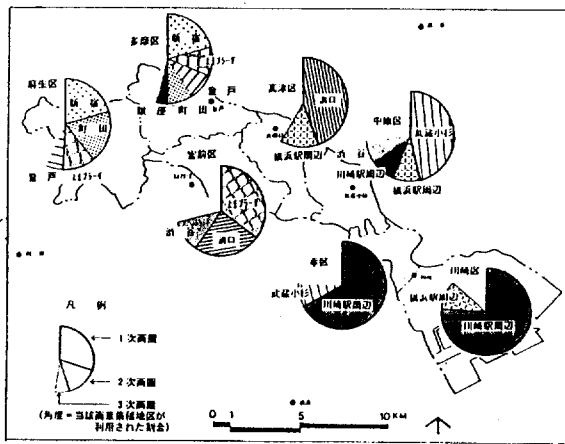
⑩おもな農産物の自給率……………p.100,101

都市近郊農業が果たしている機能の一つに、市民に対する生鮮食料品の供給ということがあげられる。近年、食料供給の安定性に加えて、鮮度、安全性、味などがより重視されるようになってきており、そうした意味では、地場の農作物のメリットは大きい。

品目	生産量	消費量	自給率
米	209 t	48,123 t	0.4%
野菜	12,724	132,332	9.6
果樹	1,717	53,104	3.2
鶏卵	565	16,750	3.4
豚肉	247	9,219	2.6
牛乳	583	51,488	1.1

(川崎市の農業—平成4年版)川崎市農政課

⑪区別商圏構成……………p.102,103



買い物先を衣料品でみると、市の北西部の地域では、市外で買い物をする人の割合が高くなっている。

市内の買い物場所では、「川崎駅周辺」が客の吸収率を高めている。アゼリアやルフロン・B Eができたことで、これまで東京などへ流出していた高級買回り品類の購買の足を引き寄せていると考えられる。

4. 副読本「かわさき」の部分改訂

副読本「かわさき」の部分改訂については、「部分改訂編集案」に基づいて改訂作業に取り組んだ。ここでは、改訂の趣旨と基本方針、および部分改訂の検討箇所について述べるにとどめたい。

(1) 改訂の趣旨

平成5年、市域の変貌や学習指導要領の改訂にともなって、副読本「かわさき」が全面改訂された。しかし、この副読本「かわさき」に掲載された資料で、統計数値の更新・改正および図版の修正の必要が生じているものがあつた。また、資料のキャプションなどの表現にも一部、検討・修正の必要なものがあつてきた。

そこで、統計数値の年度の更新や写真資料の一部さしかえを含めた、部分改訂のための改定編集作業を行った。

(2) 改訂の基本方針と内容

①図版や写真等のさしかえ、修正を必要に応じて行う。

②本文については、原則として変更しない。

- ・統計、グラフなど図表の年度の更新と表現方法の修正。
- ・写真資料のより鮮明で新しいものへのさしかえ。
- ・資料の語句の修正と追加。

その方針に沿って部分改訂箇所を拾い出したところ、優先順のAとBで48箇所あった。その内訳は、写真が17葉、図版が13点、文字が18箇所あった。

部分改訂箇所の優先順を検討し、製本の台割の関係から改訂ページを絞っていった。また、大改訂1年目でもあり、正誤とわかりやすさという観点から、改訂箇所を極力おさえたいと考えた。

以下は、検討した部分改訂箇所の優先順の一部である。

- A 19、江戸時代終わり頃の岡上の五カ田村と吉沢村の訂正とルビ確認 (P 74)
- A 20、マイコンシティの位置の図版に駅名を入れる (P 76)
- A 21、尻手黒川道路を通る車の台数の調査地点を入れる (P 79)
- A 22、井田の福祉施設、しいのき学園の現施設名を確認 (P 81)
- A 23、井田の福祉施設、もみの木寮などにルビ (P 81)
- A 24、あおぞら学園のキャプションに井田病院を付け加える (P 81)
- A 25、地図の登戸から小田急線を延ばしてつなげ、京王線を入れる (P 89)

<5章>

- C 26、農家数の移り変わりのグラフ、縦軸を戸数、横軸を年にして修正 (P 99)
- B 27、農業の様子の写真と地図が対応するように番号を (P 100)
- A 28、ダイクマの写真と地図の番号を削除 (P 102)
- A 29、ダイクマの個別企業名が全部入らないようなアングルで (P 102)
- B 30、セブンイレブンの個別企業名が全部入らないようなアングルで (P 103)
- C 31、小項目「～ほかの市や～」を「～ほかの町や～」に (P 104)
- C 32、商標から個別企業が特定しにくいアングルで (P 106)

<6章>

- C 33、「空襲によるひ害地域」の中の“被災地域”を修正 (P 113)
- C 34、地図の行政区ごとの色分けをマークに近い色で統一 (P 115)
- C 35、地図の行政区ごとの色分けをマークに近い色で統一 (P 119)
- B 36、「学校数のうつつりかわり」の学校の絵の線を太く (P 119)
- C 37、「学校数のうつつりかわり」のピンクのあみかけをとる (P 119)
- C 38、「川崎にあった～」のキャプションを「川崎の～」に (P 120)
- C 39、「あかりのうつつりかわり」のキャプションを野線の外に (P 122)
- C 40、この足踏み脱穀機の使い方で正しいか (P 125)
- B 41、民俗歴史展示室の展示物がもっとわかるものに (P 128)
- C 42、噴水を入れないアングルからのミュージアム全景に (P 128)
- C 43、高架になる前の写真のトリミング修正 (P 133)
- A 44、梓頭みの「川崎市内の民俗芸能」をとる (民俗芸能名は) (P 131)
- × 45、市内の鉄道の写真に南武線を (P 134)
- × 46、市内を通る鉄道の南武支線でよいか、浜川崎線では (確認) (P 135)

5. 郷土資料の作成、活用と市民的資質の育成

ここでは、学習指導資料の構成や内容の検討をふまえ、今後の教育をめぐる情報化や教材の多様化が進展する中で個性を重視した多様な地域学習を推進する観点にたつて、郷土資料の作成、活用と市民的資質の育成について述べてみたい。

(1) 学習材や環境教育のための副読本と学習指導資料へのコンピュータ利用

子ども一人一人の見方・考え方を大切にして、切実な問題意識の追求を支援する個に応じた社会科学学習を進めるには、副読本とその活用に資する学習指導資料もまた、可能な範囲と方法においてそれに対応していくための方向を探っていくかねばならない。

- ・同じ問題や素材であっても、調べる対象や方法、手順、まとめ方などを選べるようにする。
- ・いくつかの問題や複数の素材を提示して、それを子どもが選択して学習する。

などの工夫、改善も考えられる。今回の学習指導資料の編集においてもその点を考慮した。しかし、個に応じた学習指導は、副読本によるよりも指導法や教材開発の工夫によるところが大きいということはいままでもないことである。

副読本は、子どもの学習の手がかりとなる教科書に次ぐ基本的教材であると考えられ、また、副読本は、教師の学習指導の目安となり、拠り所となるのはもとより、子どもにとって基本的基礎的な学習事項が提示されているものである。しかし、副読本で地域のすべてを理解しよう、理解させようというのではなく、サンプルとしての副読本をヒントに、子どもと教師が地域学習の中で、新たな学習材をつくり上げていくような活用の仕方も考えられるのである。

さらに、各学校の端末機での当センターの郷土資料情報の利用が進むと、子ども一人一人の興味や関心に応じて活用する副読本や、それを支援する学習指導資料の内容や構成も変わってくるものと思われる。それに対応していくためには、副読本の作成とその活用に、より多くの情報量とかつ多様な形態の情報を入力、保存、更新できるコンピュータを利用することを考えたい。

副読本の作成では、方法面で、副読本原稿をワープロ原稿で作成することにより、新しいデータの更新、図表やグラフなどの作成や差し替えなどの部分改訂作業を効率化することである。

また、内容面では、変化の激しい地域社会の課題を自らのこととして受けとめ、積極的に地域の社会環境に関心を持ち、参加行動していく子どもを目指す「環境教育」の視点を入れる。それは、現行の副読本の内容を環境教育の視点から再構成することにより、環境教育、国際理解教育、人権教育、平和教育、福祉教育、エネルギー教育などに必要な資料を充実させ提供するとともに、市民読本としての性格を生かし、発展させることにもなる。また、それは地域学習で培った社会や自然、人間に関する認識を実践的行動にまで高め、態度化していく内容構成を工夫することでもある。

副読本の活用に関しては、まず学習指導資料を入力して、高学年や中学校担当教師の活用を促すとともに、副読本に対応した地域学習の指導案や実践事例、写真や絵、図表、グラフなどの参考資料、当センターの視聴覚センターや郷土資料教材データベースの情報を入力する。こうすることにより、ネットワーク化された教育情報システムが軌道にのった時点で、副読本に関連した郷土資料の情報を、学習指導資料が配布されない市内の小学校高学年の教師が地域素材を教材化する際の教材研究や子どもの調べる学習にも検索して活用を促進することができる。また、中学校の身近な地域の学習などでも、従来の情報だけでなく副読本に関連した郷土資料の情報を教師も、生

徒も活用することができるようになる。

本研究で、検討した「多面的に活用できる学習指導資料」の編集と構成の方法をもとに、副読本や学習指導資料の写真や絵、図表、グラフなどの郷土資料の情報の静止画や、デジタル動画が開発され、マルチメディア教材として活用できるようになれば、子どもの活動や体験とともに一人一人の興味や関心を生かし、個に応じた弾力的な社会科の地域学習を進めやすくなるであろう。さらには、市民意識の向上の面から、他教科や総合学習などでも副読本や学習指導資料に関する郷土資料の写真や絵、図表、グラフなどのデータを教材として活用していくことも考えられる。

しかし、副読本が教師と子どもとの間の生きた人間関係の中で効果的に生かされる教材であり、生涯学習体系の中で市民読本として、社会科の地域学習用として、現在のような一冊の読み物として副読本を発行することも意義があり、継続する必要がある。

(2) 市民的資質の育成と郷土資料の活用

子どもが生活している地域は、子どもにとってまさに活動・体験の場である。そこでの活動・体験を通して培ったさまざまな能力は、社会認識の基礎となる。地域にかかわり、地域で生きていくためのさまざまな能力を育てていく必要がある。そして、小・中学校で同じ素材を用いて繰り返し学習することにより、実証的にとらえる能力、問題解決力、地域に対する愛着もでてくる。

そこで、市民的資質や判断力を育てるためには、高学年でも視点を変えて、副読本の資料を関連的、連続的、発展的に活用し、学習に生かしていく必要があると考えた。

副読本「かわさき」活用のヒントー5年②

1. 単元名 通信にたずさわる人々

2. ねらい 放送は、国民の生活と深いかわりがあることや国民の生活に大きな影響を及ぼしていることをわかってほしい、そこで働いている人々が工夫や努力をしていることやこれからの生活において情報の有効な活用が大切であることに気付く。

3. 活用の意図と学習の流れ



ケーブルテレビはどんなテレビだろう？

通信で働く人々の学習をする時に、ケーブルテレビの通っている私鉄沿線の小学校では、教材として取り上げることが考えられる。しかし、加入している家庭は一部であり、テレビはスイッチを入れれば必ず写ると考えている子どもも多い。そこで、ケーブルテレビの映像が送られるシステムなどを「かわさき」を利用して学習することによって、子どもたちの認識は深まり、よりねらいに向けた学習問題の設定ができるようになると考えられる。



ケーブルテレビのよいところはどこだろう？

ケーブルテレビの特徴は、ケーブルを使って映像が送られるため、高いビルなどによる電波障害がないこと。多チャンネルシステムで、見たいときに、見たい番組が見られること。双方向チャンネルで家庭で買い物をしたり、クイズに応募したりできることが挙げられる。また、地域の放送局としての役割も強く、天気予報の中に沿線のものが入っていたり、地域の学校の運動会を放送したりしている。

このような利点は、子どもたちが調べていくとすぐに気がつくところである。その上で、ケーブルテレビで働く人ほどのようなことを工夫して番組を作っているのだろうと投げかけていけば、子どもたちの視点は、視聴者としての自分たちから、制作する側へと自然に転換していける。

より速く、より正確な情報を流していること、より視聴者に沿った番組作りをしていることなどが理解できることが大切である。

多チャンネルだからこそ、情報の選択の重要性にも気がつく。

4. 活用例

学 習 活 動	予 想 さ れ る 反 応
(1) ケーブルテレビのチャンネル表を見て、ケーブルテレビについて話し合う。 資 ケーブルテレビチャンネル表 ・チャンネル数の多さに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ずいぶんあるな。 ・テレビのチャンネルじゃないかな。 ・ケーブルテレビって書いてある。 ・どんな番組やっているのかな。 ・ぼくのうちにもあるよ。 ・他のテレビとどこが違うのかな。
(2) ケーブルテレビについて調べる。 資 「かわさき」108ヶ ケーブルテレビ番組表 ケーブルテレビ紹介ビデオ ・興味・関心別のグループに別れて調べられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> =システム= ・ケーブルを通して電波を送っている。 ・映像がとってきれいなんだ。 =番組内容= ・チャンネルによって内容が決まっている。 ・学校の運動会も流している。 ・子どもチャンネルもあるんだ。 ・見たい映画がやっている。
(3) ケーブルテレビの良いところを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のテレビよりもチャンネルが多い。 ・好きな番組が好きな時に見られる。 ・自分たちの住んでいる近くのこと分かる。 ・事件があるとすぐに報道される。

このように地域の素材を視点を変えて学習に生かし、子ども自らが社会的事実・事象にはたらきかけて追求していくなかで、主体的な学習態度・能力を育てることが、社会科において生涯にわたって学び続け、自らを育て続ける力を育成することにつながると考える。

次に、郷土の素材を生かし、川崎の母なる川といわれる多摩川を小学校の各教科領域で、各学年の発達段階に応じて、また各教科の目標や内容に応じて教材化することについて、社会認識の点から考えてみたい。

地域には、中学年の社会科で学習するほとんどの内容が含まれているので、生活科で学んだ社会認識の芽を育てることができる。また、地域学習で身につけた社会認識の内容や方法などを高学年の学習で生かすことにより、地域の事実にあふれ、問題を追求する過程で、地域社会への帰属感や愛情を深め、地域をよりよくしようという市民的資質を育てることができる。さらに、地域の多くの人々と出会う中で、人間のさまざまな生き方に触れ、共感し、子ども自らが自分自身の生き方を考え、学ぶことになる。社会認識は、社会についてその子なりにわかることととらえると、その子なりが立場であり、価値だといえる。その価値は人間の行動を左右する根底になるものとなる。そして、生きてはたらく社会認識は知的なものや情意的（価値的である）なものが結び付いている。態度は認知的側面と情意的側面から成り立つが、認知的側面は、行為に知識や論理性を持たせ、情意的側面は、感情・価値・意思など行動にエネルギーを持たせる。その子なりにわかるということは、価値に注目し一人一人の見方・考え方を大切に、個性的な社会認識、つまり知的なものや情意的なものが一体となったその子らしい主体的な社会認識を育成することである。学習指導資料も、そのような意味で一人一人の見方・考え方を支援できるようにということ考えたのである。

そこで、小学校の各教科領域で多摩川という同じ素材を用いて、環境条件に具体的にふれ、かわることで、実感をともなった社会認識に基づく価値と実践につなげていくことを考えた。

—— 多摩川の教材化と素材の例 ——

- ・川崎の北を流れる多摩川を各教科領域、発達段階に応じて繰り返し学習することにより、子どもの多摩川を愛する心、身近な地域を流れる川や自然を大切にできる心、自分たちの住む地域や川崎を愛し、より良い環境にしていく心を育て、高めることをねらいとする。
- ・教材化にあたっては、総合学習や学際的な扱い、地域の人材活用なども考慮する。
- ・生活科では、1年「公園で遊ぼう」「秋と遊ぼう」「冬を楽しくすごそう」、2年「町の探検」
- ・社会では、水と人の社会環境を中核にして、私たちの住む川崎市、昔調べ、下水処理、二カ領用水と小泉次大夫、親水公園と新しい町づくり、紙すきや染め物などの伝統工業、サケの放流と環境保全、私たちの国土、大昔の人々の暮らし、中野島の田村文平による玉川和唐紙
- ・国語では、多摩川にまつわる民話、5年作文「自然を大切に」や6年「短歌と俳句」などの表現
- ・理科では、4年「流れる水のはたらき」、5年はサケで「魚の誕生と育ち」、6年「ヒトと環境」
- ・音楽では、武蔵野太鼓「多摩川」、川崎に伝わるお囃子、多摩川から発想する表現「物語と音楽」
- ・図工では、多摩川と橋、多摩川で遊んだこと、多摩川百景、未来の多摩川と町の共同制作
- ・道徳では、川崎市立小学校道徳教育研究会による地域素材の開発と指導法の研究の『かわさきはふるさと』（昭和63年）から、3年「多摩川の赤い夕やけ」（向上心）、4年「さくらの命」（郷土愛）、5年「久末のかるうす」（創意工夫）、6年「まずしい川崎宿をたてなおせ」（尊

敬感謝)、「京浜工業地帯を生んだ浅野総一郎」(創意工夫)

・家庭科では、「地域の環境と住まい」

このような地域の川や道の教材化により、各学校で取り組んでいる地域に根ざす教育、地域の特性を生かした教育課程の編成について、さらに推進していく必要がある。

小学校6年間で川崎の現在を、過去を、そして、未来を学習することにより、子どもに「自分も川崎の一人の市民として、川崎という町に愛着や誇りをもって生きていく力や、地域をよりよくしていこうとする意欲や態度」を育てる郷土資料の作成と活用がより意義あるものになると考える。

V まとめと今後の課題

副読本「かわさき」の学習指導資料の編集方針や構成、現行検討では地域学習の原理や方法論に立ち返ることにもなった。それは、新しい学力観にたった社会科の指導方法を検討していくことでもあった。他都市のような単元配列型のものでなく、市民読本としての性格も持つ「かわさき」は、その内容構成を充実させると、環境教育の社会認識の領域に発展させることも可能となる。

地域学習における副読本「かわさき」と学習指導資料の活用について、課題として次のことがあげられるが、今後の郷土資料の作成と活用の研究に期待したい。

1. 副読本と学習指導資料の活用に関して

- ①副読本「かわさき」や学習指導資料の資料が、有効妥当なものであるか、また利用する教師にとってわかりやすいものであるか、授業を通して検証する。
- ②学習指導資料や副読本「かわさき」の各学校での利用状況や必要な郷土資料を調査し、スライドやビデオ等の郷土資料の作成に生かしていく。

2. 郷土資料を生かした地域学習に関して

- ①副読本「かわさき」や学習指導資料をはじめ当センターの資料を生かした地域学習の実践事例づくりを通して、子どもの川崎に対するイメージや見方をとらえ、その変容を検証していく。
- ②小・中学校で同じ素材を用いてどのような見方が育っていくか、多摩川などの教材開発をする。

3. 部分改訂のための航空写真に関して

地図指導のために、副読本の航空写真、鳥かん図、絵地図、地形図を合わせた資料の作成と、地図指導の手引きを作成する。

おわりに

郷土資料の作成と活用に関する3年次目の研究で、研究というよりも学習指導資料の編集に追われる1年間であった。この間、副読本「かわさき」の学習指導資料編集及び部分改訂にあたって、丁寧なご指導をいただいた小学校社会科教育研究会会長の星野 仁先生、副会長の宮田 進先生、市教委指導主事横山吉雄先生はじめ助言者の先生方に心よりお礼を申し上げます。

また、ご多忙の中、執筆をしてくださった常任委員の先生方、並びに様々な面で支えてくださった所属校の校長先生はじめ先生方に感謝申し上げます。

<先行研究>

- 荒木 和男 「郷土資料の作成と活用に関する研究」川崎市教育研究所研究報告書 1984年
松田 幸夫 「郷土資料の作成と活用に関する研究」

川崎市総合教育センター紀要6号 1993年

<参考文献>

- 佐島 群巳 「地域を扱う学習の方法と授業」 教育出版 1983年
文部省 「小学校指導書社会編」 学校図書 1989年
佐島 群巳編 「環境問題と環境教育」 国土社 1992年
伊東 亮三編 「社会科教育の21世紀」 明治図書 1985年
大森 照夫他編 「社会科教育指導用語辞典」 教育出版 1986年
文部省 「小学校教育課程運営改善講座 社会」 1992年

<指導助言者>

- 日本女子大学教授（川崎市総合教育センター専門員）----- 佐島 群巳
川崎市教育委員会指導主事 ----- 横山 吉雄
川崎市立末長小学校校長 ----- 星野 仁
川崎市立宿河原小学校校長 ----- 宮田 進
川崎市立四谷小学校校長 ----- 神谷 肇
川崎市立東大島小学校教頭 ----- 村上 吉郎
川崎市立柿生小学校教頭 ----- 荒木 和男
川崎市立小田小学校教頭 ----- 吉田 武
川崎市総合教育センター第2研究室長 ----- 清水 忠徳

<執筆 者>

- 川崎市立浅田小学校教諭 ----- 雲林院 泰夫
川崎市立東小倉小学校教諭 ----- 小島 康宏
川崎市立上丸子小学校教諭 ----- 高橋 規夫
川崎市立新城小学校教諭 ----- 桑野 ヨシ江
川崎市立大谷戸小学校教諭 ----- 佐藤 芳久
川崎市立東高津小学校教諭 ----- 栗林 昌人
川崎市立高津小学校教諭 ----- 橋本 英之
川崎市立久末小学校教諭 ----- 伊東 芳男
川崎市立西野川小学校教諭 ----- 芹澤 伸司
川崎市立犬蔵小学校教諭 ----- 松田 幸夫
川崎市立百合丘小学校教諭 ----- 石川 健次

<さし絵>

- 川崎市総合教育センター教育相談員 ----- 尾池 克巳